昭和戦前期 文化遺産保護事業の全貌

明治後期から大正にいたる産業発展の過程で、わが国も工業化による国土の開発が進み、文化的景観と紀念物文化財は破壊の危機にさらされる。

この事態に徳川頼倫らは一九一一年、遺跡や自然を文化財として保護顕彰することを目的として「史蹟名勝天然紀念物保存協会」を発足させ、一九一九年「史蹟名勝天然紀念物保存法」を成立させた。

弊社では二〇〇三年六月、同協会の会報『史蹟名勝天然紀念物』の【大正編】を復刻刊行し、このたび、関東大震災を挟んで約三年間の休刊後に復刊された【昭和編】（大正一五年一月～昭和一九年八月終刊まで）を、全四期に分けて復刻刊行する。昭和戦前期の文化遺産保護行政の足跡を辿り、その全貌を明らかにするものである。

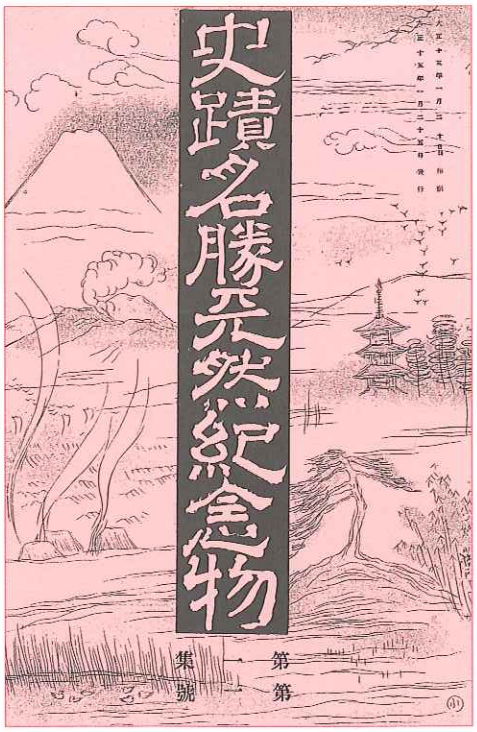
「エラスムス木像」

第3集第7号（昭和三年七月一日）より

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編 【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物

【昭和編 第Ⅰ期】全12巻



体　裁――A5判・上製・総5、506頁

内　容――『史蹟名勝天然紀念物』第1集第1号～第4集第12号（大正一五年一月～昭和四年一二月）

別　冊――解説（高木博志）・総目次・索引（昭和編第Ⅳ期完結時に刊行）

定　価――本体揃価格2000、000円＋税

2004年10月刊行開始

不二出版

『史蹟名勝天然紀念物』【昭和編】の復刻によせて

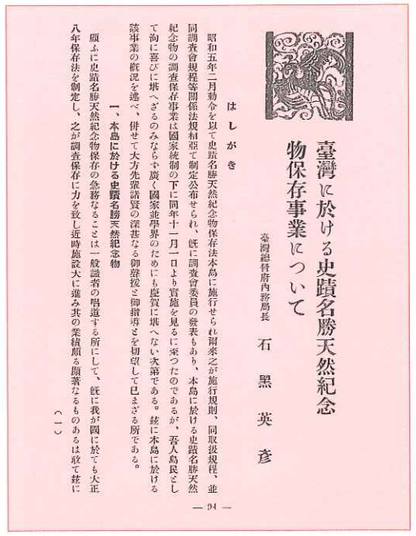
高木博志

二十世紀、とくに日露戦争後以降の、史蹟・名勝保存や歴史意識発現の特色は、社会との密接なかかわりにある。総力戦に対応できる町や村を創りだそうとする、この時期には、一人一人の国民の歴史意識の涵養がめざされた。十八世紀以来の名望家や知識人が史蹟顕彰をしてきたあり方と、対象が「国民」的な広がりをみせる二十世紀のあり方とは、質的な変化がある。とくに昭和戦前期には、史蹟の前にはわかりやすい建標がなされ、郷土史の編纂や修学旅行、さまざまな団体による史蹟講演会などが活発になる。黒板勝美は、早くに「史蹟遺物保存に関する研究の概説」（『史蹟名勝天然紀念物』第一巻、一九一四年）で、南朝史蹟は歴史的価値はないけれども、「国民を感奮せしめた一の史蹟」として、保存の必要を説く。こうした国民教化と神話的・「名分論」的な史蹟の動員は、今回翻刻される昭和編『史蹟名勝天然紀念物』において、一九二六年一月の内務大臣官房地理課による復刊、さらには一九二九年一月からの文部省宗教局保存課への移管をへて、全面展開してゆく。昭和編には、明治天皇の聖蹟・南朝史蹟の顕彰、神武天皇聖蹟調査がみられる。日中戦争下では、国民精神作興と史蹟が結びつけられ各地に修養道場もつくられる。

一方、日中戦争の勃発までの時期は、外国からの観光客を誘致するツーリズムの全盛期でもあり、一九三一年の国立公園法の成立には、厚生運動・観光・地方振興といった要素もからむ。また歴史学・美術史・植物学・動物学・造園学などの学問の、二十世紀における科学的な発展も読みとれる。国内における史蹟名勝天然紀念物保存法（一九一九年）は、先行する朝鮮総督府の古蹟及遺物保存規則（一九一六年）と連動していたが、昭和編には植民地からの報告も多い。彙報からは、指定の実際や各地の保勝会など具体的な情報が得られる。

歴史学でいえば、「国史」は「郷土史」の自発性を引きだしながら展開する。昭和戦前期の史蹟名勝天然記念物は広く社会と接点を持ち、今日につながる文化遺産と地域開発、あるいは文化遺産を通じた歴史意識形成などの問題群を生みだしてゆく。

たかぎ　ひろし　京都大学人文科学研究所　助教授



臺灣に於ける史蹟名勝天然紀念物保存事業について

臺灣總督府内務局長　石黒英彦

はしがき

昭和五年二月勅令を以て史蹟名勝天然紀念物保存法本島に施行せられ附帯之が施行規則、同取扱規程、並同調査會規程等開布法規相帝て制定公布せられ、既に調査會委員の發表もあり、本島に於ける史蹟名勝天然紀念物の調査保存事業は國家統制の下に同年十一月一日より實施を見るに至つたのであるが、吾人島民として夙に喜びに堪へざるのみならず蔵く園家並學界のために慶賀に堪へない次第である。茲に本島に於ける蹟事業の概況を述べ、併せて大方先輩諸賢の深甚なる御鞭撻と御指導とを切望して已まざる所である。

一、本島に於ける史蹟名勝天然紀念物

顧ふに島嶼名勝天然紀念物保存の急務なることは、故識者の唱道する所にして、既に我が國に於ても大正八年保存法を制定し、之が調査保存に力を致し近時施設大に進み其の業績頗る顕著なるものあるは欣に茲に

第6集第2号（昭和六年二月一日）より

「徳島市の石割樫」

第2集第7号（昭和二年七月一日）より

近代日本文化財・景観保護関連年表

一八七一年（明治四年）	「古器旧物保存方」布告
一八七八年	フェノロサ来日
一八八八年	「臨時全国宝物取調局」設置　宮内省
一八九四年	志賀重昂『日本風景論』刊行
一八九五年	奈良帝国博物館開館
一八九六年	内務省に古社寺保存会設置
一八九七年	京都帝国博物館開館 「古社寺保存法」制定
一九〇〇年	帝国古蹟取調会発足
一九一〇年	南葵文庫において史蹟史樹保存に関する茶話会
一九一一年（明治四四年）	徳川頼倫等貴族院に「史蹟及天然紀念物に関する建議案」提出 史蹟名勝天然紀念物保存協会発足
一九一四年（大正三年）	『史蹟名勝天然紀念物』刊行開始
一九一九年	「史蹟名勝天然紀念物保存法」制定 庭園協会創立　機関紙『庭園』刊行開始
一九二三年	『史蹟名勝天然紀念物』五月休刊 関東大震災
一九二六年	『史蹟名勝天然紀念物』再刊　内務省地理課
一九二九年（昭和四年）	史蹟名勝天然記紀物保存協会文部省に移管 『国宝保存法』制定（古社寺保存法は廃止） 『國立公園』刊行開始（国立公園協会）
一九三三年	「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」制定
一九三四年	風景協会創立　機関紙『風景』刊行開始
一九三五年	和辻哲郎『風土　人間学的考察』刊行
一九四五年	敗戦
一九四九年	法隆寺金堂火災
一九五〇年	「文化財保護法」制定

◉内容見本

白河樂翁公の遺蹟に就いて

子爵　澤　榮一

白河樂翁公のことに就て餘り多くを知つて居らぬが、現在私の世話をして居る東京市の養育院は樂翁公の御蔭で出來たと申しても宜い。私が養育院の世話を初めてから丁度五十年になる。其の起りは明治三年であるけれども私の養育院に關係したのは明治七年からである。東京市の發展と共に益々總べてのことが繁昌して行くのであるから貧乏人は出ないやうに思はれるが、是は孰れの國でも同樣であつて、倫敦は富んだ國の首府であるから貧乏人がないやうに思はれるが、矢張り貧乏人の多いことは申上げる迄もない。即ち東京市が繁昌を增す程貧民が從つて增して來る。是等の貧民に對しては相當の社會事業がなければならぬので、市としても今日の養育院の他に種々の社會事業がある。今日の養育院は從來の關係から棄兒、迷兒、遺兒、普通の病人又は行旅病者或は不具者不良少年斯う云ふ種類に區別され場所を分けて收容して居るが、今は二千二百人位居ります。此の養育院の起りは如何なる原因から起つたかと云ふと、明治五年に……私もよく記憶して居らぬが、イスパニヤか或は露西亞であつたか、其の國の皇室關係の人が來遊されたことがある。其の時に乞食が市中を徘徊して居つたのであるが、東京市の政治家連中が見苦しいから、あの乞食を引き集めて散在せぬやうに、お客さんの目にとまらぬやうにした方が好からうと云ふことであつた。併ながらそれを如何にすれば始末することが出來るかと云ふことになると、普通の人はさう云ふことは嫌やであります。其の當時穢多と非人と云ふ差別があつて、穢多の頭

第1集第1号（大正一五年一月二五日）より

第一集總目次

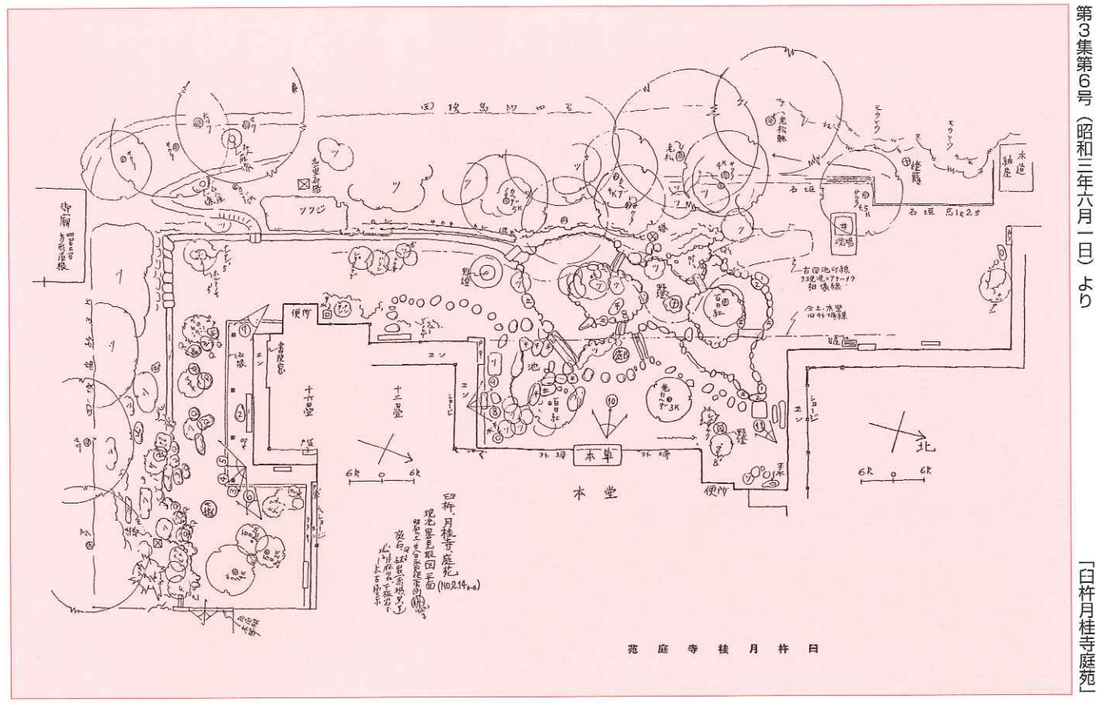
（大正十五年）

口繪

長門峡
凱晴快雨（廣重）
日本橋之白雨（廣重）
舊江戸城城門十圖
法隆寺五層塔婆
上野國分寺址
富士山原始林の景觀
鎌倉鶴岡八幡宮藏國寶辨財天神像
小金井桜の出の櫻
奈良の鹿
北山十八間戸
品川砲臺
高砂松
菊　櫻
長門青海島
雉と鶴雉
堀切花菖蒲
根岸御行の松
下野藥師寺址
屋形石ノ七ッ釜
伊豆湯ヶ島淨簾の瀧
稱名寺内界
白　蛇
高ヶ坂石器時代住居址
大和覺恩寺舊蹟の十三重塔
紫香樂宮址
兒　鯨
アォガヘル
沼津千本松原（鷲山）

第3集第6号（昭和三年六月一日）より

「臼杵月桂寺庭苑」



史蹟名勝天然紀念物保存協会　名簿（大正十五年一月九日現在）

○編集委員

三上参次　渡瀬庄三郎　三好　学　荻野仲三郎　佐藤伝蔵　国府種徳

柴田常恵　児玉九一

○評議員（イロハ順）

工学博士　伊東忠太
理学博士　井上禧之助
農学博士　原熙
林学博士　本多静六
帝室林野管理局長　本田寺介
文学博士　鳥居龍蔵
東京帝室博物館長　大島義脩
宮内省御用掛　増田干信
内務省嘱託　荻野仲三郎
地質調査所技師　小倉勉
理学博士　渡瀬庄三郎
理学博士　脇水鉄五郎
理学博士　川瀬善太郎
文学博士　高橋健自
田子勝彌
谷口梨花
龍居松之助
内務政務次官　俵孫一
坪谷善四郎
文学博士　辻善之助
理学博士　中野治房
内務省地方局長　潮恵之輔
林学博士　上原敬二
農学博士　内田清之助
文学博士　黒板勝美
理学博士　黒田長礼
理学博士　山口鋭之助
内務省衛生局長　山田準次郎
理学博士　山崎直方
柳田国男
東京美術学校長　正木直彦
内務省神社局長　松本学
宮内省御用掛　増田干信
内務省嘱託　国府種徳
文学博士　笹川種郎
東京高等師範学校教授　佐藤伝蔵
文学博士　喜田貞吉
橋井清五郎
文学博士　三宅米吉
理学博士　三好学
文学博士　宮地直一
理学博士　白井光太郎
文部省宗教局長　下村寿一
内務省嘱託　柴田常恵
農林省山林局長　平熊友明
文部省普通学務局長　関谷龍吉
工学博士　関野貞
宮内省諸陵頭　杉栄三郎
内務参与官　鈴木富士彌

◉内容見本　第1集第1号より（縮小しています）

史蹟名勝天然紀念物　第一集第一號目次　大正十五年一月廿五日發行

表紙　題字　故德川頼倫侯　圖案　平福百穂畫伯

口繪　一、長門峽　二、凱風快晴（北齋）日本橋之白雨（廣重）

一、再刊に際して……内務大臣會長　若槻禮次郎……一
一、國民精神と史蹟名勝天然紀念物……伯爵　德川達孝……五
一、天然紀念物保存と自然科學……理學博士　三好學……一三
一、史蹟保存事業の難關……内務事務官　兒玉九一……一六
一、英國の保存事業概觀……國府犀東……二〇
一、猶の話……理學博士　渡瀬庄三郎……二五
一、北齋と廣重の見た富士……藤懸靜也……三五
一、山形縣大沼の浮島に就いて……理學博士　中野治房……五〇
一、白河樂翁公の遺蹟に就いて……子爵　澁澤榮一……五六
一、三輪神社印杉に就いて……醫學博士　三宅秀……六五
一、井上通女の遺蹟を訪ねて……棚橋絢子……六九
一、明治天皇御遺蹟蒲田梅屋敷の保存……稲村坦元……七九
一、大和春日山原始林の生態的特徴とその保存に就いて……岡本勇治……八七

圖　前會長故德川侯爵追悼欄

挿繪　前會長肖像、追悼講演會物

一、悼辭……内務大臣會長　若槻禮次郎……九五
一、追悼の辭……男爵　阪谷芳郎……九七
一、史蹟名勝の保存と故德川侯爵……文學博士　三上參次……一〇六
一、天然紀念物の保存と故德川侯爵……理學博士　三好學……一一五
一、協會月報、公報彙纂

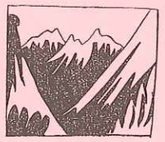
再刊に際して

内務大臣會長　若槻禮次郎

一

新に一年を迎へるといひましても、前年の延長に外ならぬのであります。舊來からの天地萬物に對し、新らしい氣分になるまでのことを稱へて、新らしいと申すに過ぎません。

「史蹟名勝天然紀念物」と題する史蹟名勝天然紀念物保存協會から刊行して參つた印刷物が、歳の改まると共に形を變へ、今回雜誌として刊行せらるゝことゝなつたのは、これまた舊來からの印刷物が形を變へて延長せらるゝまでのことであります。先年の大震災前後から休刊して居たものを繼續したといふに過ぎません。從來は保存協會の報告であつたものを、今度は雜誌に改めただけであります。別段刊行の主旨が變つたわけでもなく、事新らしく何等いふべきほどのこと



國民精神と史蹟名勝天然紀念物

伯爵　德川達孝

其一

歳の改まると共に天地は新たになりました。史蹟と申し名勝といひ、天然紀念物と申します如きは、殊に新たな意味の存することを、こゝに新たに闡明するやうに致したい。時々刻々物は活きて居ります、その活きてゐる物を活かして行くのが、新春の劈頭において先づお互ひに考へなければならない事柄の一つであると考へます。それには常に新しい意味を新しく充實せしめて、本來活きてゐる物をいよ〳〵活かして行きたいのであります。

史蹟と名勝と竝に天然紀念物との三つのものには、いつでも活きた意味がみち、新しい意味が充實してをります。殊に我邦の如き國柄から申せば、丘でも平地でも、苟くも　皇室に關係がある箇所であれば、皇居の跡でも都の跡でも、無限の意味に充實して活きてゐるのであります。殊に　明治天皇の御遺蹟は、最も貴

◎『史蹟名勝天然紀念物』（大正編・昭和編）を推薦します

同時代の文化的状況をうつしだす貴重な資料

荒山　正彦

『史蹟名勝天然紀念物』（大正編）が復刻されることになった。この雑誌の刊行期間は、日本最初の外国人観光客向けの旅行案内所であるジャパン・ツーリスト・ビューロー（現在のＪＴＢの前身）の創設（明治四五年）や旅行雑誌『旅』の創刊（大正一三年）など、日本において観光や旅行をとりまく状況が大きく変化した時代である。

近年における世界遺産の例をみるまでもなく、史蹟などの歴史的な遺産や、名勝などのすぐれた風景地、そして天然記念物などの特異な自然の事物は、観光や旅行にとって格好の目的地となってきた。今回復刻の対象となった大正期の史蹟・名勝・天然記念物をめぐる状況も同様であった。これらの「文化財」は、その当初から、学術的な価値ばかりではなく、一般大衆が見学し経験する対象として大きな価値を有していた。したがって、具体的な史蹟・名勝・天然記念物からは同時代の歴史認識、風景観、自然観が浮かびあがる。一方で、それらのものをめぐっては地元や郷土において保存運動が展開された。そうした大正期の社会や文化の仕組みそのものも、ここには映しだされる。

また、個別の史蹟・名勝・天然記念物指定へ向けて、各専門の委員達による全国各地の実地調査があった。柳田国男らによる民俗の記録収集や、柳宗悦らによる民芸の記録収集などと同じく、全国各地におけるこうした調査の軌跡も、ここには記録されている。今回復刻された『史蹟名勝天然紀念物』（大正編）は、文化財関連の分野だけではなく、観光研究をはじめ日本研究や郷土研究にとってもたいへん貴重なものとなろう。

あらやま　まさひこ　関西学院大学　助教授

文化遺産保全の原点

上田　正昭

「文化財保護法」が制定されたのは、昭和二五（一九五〇）年の五月三〇日であり、その施行は同年の八月二九日からであった。この法律が制定される直接の契機になったのは、前年一月二六日の法隆寺金堂壁画の焼失であった。

現行の「文化財保護法」でも史蹟名勝天然記念物などの指定とその保存が重要な事項となっているが、その原点は大正三（一九一四）年の九月から出版が開始された『史蹟名勝天然紀念物』にあった。史蹟名勝天然紀念物保存協会のこの事業は画期的であり、大正八年制定の「史蹟名勝天然紀念物保存法」の制定にさきだつ貴重な調査報告書であった。

文化遺産の保護とその活用のありようが改めて問い直されつつある昨今、大正三年九月の第一巻一号から大正一二年五月の第六巻五号までを『史蹟名勝天然紀念物』（全三巻・附録一・別冊一）として刊行されることはきわめて有意義である。保存とは有形・無形の文化財をそのままに放置することではない。文化財を守りかつ活かすことが肝要である。大正期の原本は今日入手がきわめて困難であって、その復刻は必ずや日本の文化遺産の保全に寄与するにちがいない。

うえだ　まさあき　京都大学名誉教授　文学博士

銭貨出土集成と『史蹟名勝天然紀念物』

栄原永遠男

京都大学の大学院の一時期、私は、ほとんどの時間を、自分の所属する国史研究室ではなく、考古学研究室の書庫ですごしていた。この書庫には、それこそ報告書や雑誌がうなっていた。もちろん日本でも指折りの蔵書である。私は、そこに立入りを許され、日本古代銭貨の出土例を集めるのに没頭していたのである。薄暗くかびくさく荘厳で、冬は体の芯まで冷え込む書庫内は、ときおり検索に院生や学生が入ってくる以外は、静寂そのものであった。

このような書庫内での苦行に際して、戦前の出土例を探すときに私が頼りにしたのが、『考古学雑誌』や各府県の県報とならんで、『史蹟名勝天然紀念物』であった。当時、出土例の集成は、すでにいくつか発表されていた。しかし、それらはおおむね、古い集成をそのまま引き写し、それにいくつかの出土情報を付け加えた程度のものであった。私はそれに飽き足りず、一から集成し直そうという無謀なことを思い立ち、上記のような仕儀となったのである。

どこで出土があったのか、そんなことは五里霧中である。ただやみくもに報告書を端から順番に見ていくしかない。そこで『史蹟名勝天然紀念物』のページを繰っていくと、全国の史蹟その他に関する動向や遺物に関する情報がみえてくる。それをたよりに、その地域や時期の報告書を検索するのである。多くははずれ。しかし、たまにこれまで知らなかった出土の事実を突き止めることができる。そんなとき、私は『史蹟名勝天然紀念物』に感謝した。その『史蹟名勝天然紀念物』が復刻されるという。なつかしく喜ばしいかぎりである。

さかえはら　とわお　大阪市立大学　大学院文学研究科　教授

文化財・自然に関する文化史的研究の宝庫

羽賀　祥二

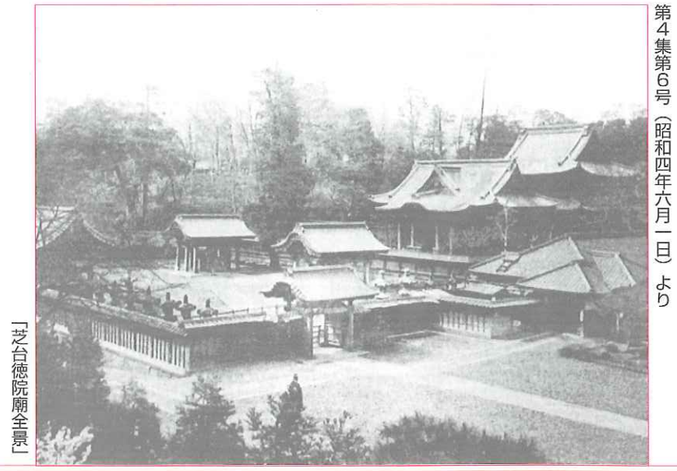
一九一九年史蹟名勝天然紀念物保存法の制定をきっかけに、日本における文化財・自然の保存事業は本格化した。その概要を理解することができるもっとも重要な史料が『史蹟名勝天然紀念物』である。法規の解説はもとより、保存の理念・イデオロギーの主張、保存の方法などきわめて重要な論考が毎号掲載され、当時のこの問題に関する熱気ある雰囲気をうかがえる。国民精神、郷土や自治という観念と関連させて、保存事業の意味を解説した多くの論説のなかに、文化財の価値序列のあり方を確認できる。

論説に加えて、各地の文化財・自然・風景の調査報告、中央と地方での保存運動の動向は「協会月報」欄で、各道府県での史蹟名勝天然紀念物の指定の動きは「公報彙纂」欄で知ることができる。その他協会が主催して毎月おこなわれた見学旅行会の記録、各地の保存・顕彰事業・後援会などの動き、新刊紹介もあり、その内容は多彩である。まさに中央と地方での文化財をめぐる動向を知る恰好の資料だといえよう。

西欧の保存事業からの影響ということも、解明が待たれる大きなテーマの一つであろう。日本も同時代的にこの動きに反応していた。この雑誌の復刊が二〇世紀初頭の世界史的な文化財・自然保存の動向を振り返り、その意味を考え直してみる礎石の役割を果たすことは間違いないと思う。

史蹟名勝天然紀念物保存協会の会長であった徳川頼倫は「保存事業の恩人」だと評されていた。頼倫は紀州徳川家の出身である。紀州には『紀伊続風土記』と『紀伊名所図会』がある。こうした優れた文化政策の成果が近代の保存事業にどのように受け継がれたのだろうか。この雑誌に見える頼倫への賛辞からそうした問題を考えてみたいと個人的な興味もひかれる。全国各地での郷土史の歴史を振りかえろうするとき、この雑誌に盛り込まれている情報が多くの示唆を与えてくれるだろう。

はが　しょうじ　名古屋大学　文学研究科　教授

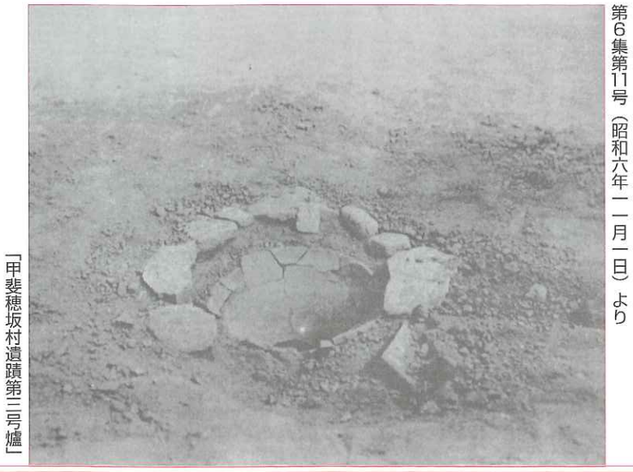


第4集第6号（昭和四年六月一日）より

「芝谷徳院廟全景」

第2集第1号（昭和元年一月一日）より

「奄美の黒兎」



第6集第11号（昭和六年一一月一日）より

「甲斐穂坂村遺蹟第三号爐」

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物【昭和編 第Ⅰ期】全12巻

◎概　要——A5判・上製本・総5、506頁

復刻版の巻数は、大正編（1～3巻）を継承し、第4巻から始まります

◎収録内容

復刻版巻数	原本	配本
第4巻	大正15年1月～4月（第1集1号～4号）	第1回配本＝第4巻～第9巻（2004年10月刊）本体揃価格100、000円＋税 ISBN4-8350-5376-1
第5巻	大正15年5月～8月（第1集5号～8号）	
第6巻	大正15年9月～12月（第1集9号～12号）	
第7巻	昭和2年1月～4月（第2集1号～4号）	
第8巻	昭和2年5月～8月（第2集5号～8号）	
第9巻	昭和2年9月～12月（第2集9号～12号）	
第10巻	昭和3年1月～4月（第3集1号～4号）	第2回配本＝第10巻～第15巻（2005年5月刊）本体揃価格100、000円＋税 ISBN4-8350-5383-4
第11巻	昭和3年5月～8月（第3集5号～8号）	
第12巻	昭和3年9月～12月（第3集9号～12号）	
第13巻	昭和4年1月～4月（第4集1号～4号）	
第14巻	昭和4年5月～8月（第4集5号～8号）	
第15巻	昭和4年9月～12月（第4集9号～12号）	

◎解　説——高木博志（京都大学人文科学研究所助教授）

◎別　冊——解説（高木博志）・総目次・索引（昭和編第Ⅳ期完結時に刊行）
これのみ分売可＝本体価格2、000円＋税
ISBN4-8350-5419-9

◎原本提供——東京芸術大学附属図書館

◎推　薦——荒山正彦・上田正昭・栄原永遠男・羽賀祥二

◎定　価——本体揃価格2000、000円＋税

第6集第1号（昭和六年一月一日）より

「小野村枝垂栗自生地」

◎既刊図書のご案内

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物【大正編】全3巻 附録1 別冊1

◎概要——A4判、A5判・上製本・総1、510頁
◎解説——丸山　宏（名城大学教授）
◎別冊——解説（丸山　宏）・総目次・索引
これのみ分売可＝本体価格1、000円＋税
ISBN4-8350-4407-X
◎定価——本体揃価格68、000円＋税
ISBN4-8350-4402-9
◎2003年6月一括刊行済み

表示価格は、全て税別

不二出版
〒113-0023 東京都文京区向丘一-二-一二
TEL ○三-三八一二-四四三三
FAX ○三-三八一二-四四六四
振替 ○○一六○-二-九四○八四

昭和戦前期 文化遺産保護事業の全貌

明治後期から大正にいたる産業発展の過程で、わが国も工業化による国土の開発が進み、文化的景観と紀念物文化財は破壊の危機にさらされる。

この事態に徳川頼倫らは一九一一年、遺跡や自然を文化財として保護顕彰することを目的として「史蹟名勝天然紀念物保存協会」を発足させ、一九一九年「史蹟名勝天然紀念物保存法」を成立させた。

弊社では二〇〇三年六月、同協会の会報『史蹟名勝天然紀念物』の【大正編】を復刻刊行し、このたび、関東大震災を挟んで約三年間の休刊後に復刊された【昭和編】（大正一五年一月～昭和一九年八月終刊まで）を、全四期に分けて復刻刊行する。昭和戦前期の文化遺産保護行政の足跡を辿り、その全貌を明らかにするものである。

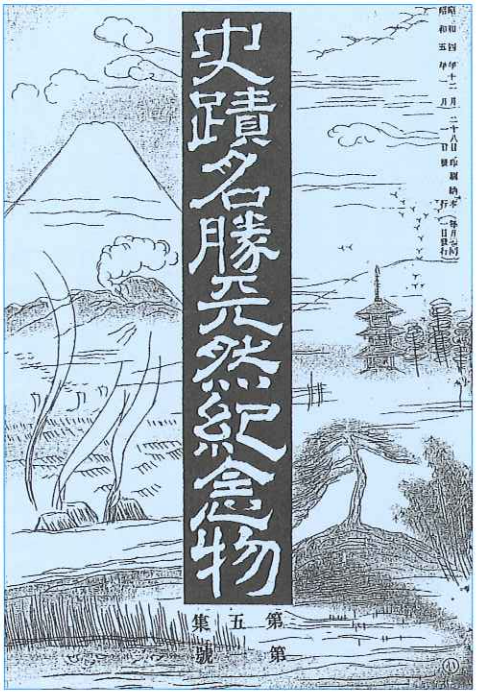
第5集第5号（昭和五年五月）より

近江長安寺牛塔

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編 【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物

【昭和編 第Ⅱ期】全12巻



体裁――A5判・上製・総5、276頁

内容――『史蹟名勝天然紀念物』第5集第1号～第8集第12号（昭和五年一月～昭和八年一二月）

別冊――解説（高木博志）・総目次・索引（昭和編第Ⅳ期完結時に刊行）

定価――本体揃価格2000、000円＋税

昭和編・第Ⅱ期＝2005年10月刊行開始

不二出版

『史蹟名勝天然紀念物』【昭和編】の復刻によせて

たかぎ　ひろし　京都大学人文科学研究所　助教授

二十世紀、とくに日露戦争後以降の、史蹟・名勝保存や歴史意識発現の特色は、社会との密接なかかわりにある。総力戦に対応できる町や村を創りだそうとする、この時期には、一人一人の国民の歴史意識の涵養がめざされた。十八世紀以来の名望家や知識人が史蹟顕彰をしてきたあり方と、対象が「国民」的な広がりをみせる二十世紀のあり方とは、質的な変化がある。とくに昭和戦前期には、史蹟の前にはわかりやすい建標がなされ、郷土史の編纂や修学旅行、さまざまな団体による史蹟講演会などが活発になる。黒板勝美は、早くに「史蹟遺物保存に関する研究の概説」（『史蹟名勝天然紀念物』第一巻、一九一四年）で、南朝史蹟は歴史的価値はないけれども、「国民を感奮せしめた一の史蹟」として、保存の必要を説く。こうした国民教化と神話的・「名分論」的な史蹟の動員は、今回翻刻される昭和編『史蹟名勝天然紀念物』において、一九二六年一月の内務大臣官房地理課による復刊、さらには一九二九年一月からの文部省宗教局保存課への移管をへて、全面展開してゆく。昭和編には、明治天皇の聖蹟・南朝史蹟の顕彰、神武天皇聖蹟調査がみられる。日中戦争下では、国民精神作興と史蹟が結びつけられ各地に修養道場もつくられる。

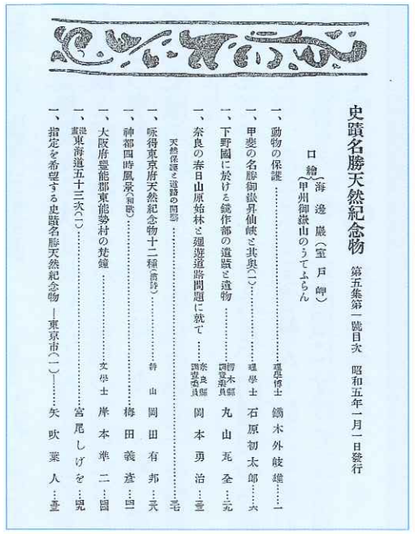
一方、日中戦争の勃発までの時期は、外国からの観光客を誘致するツーリズムの全盛期でもあり、一九三一年の国立公園法の成立には、厚生運動・観光・地方振興といった要素もからむ。また歴史学・美術史・植物学・動物学・造園学などの学問の、二十世紀における科学的な発展も読みとれる。国内における史蹟名勝天然紀念物保存法（一九一九年）は、先行する朝鮮総督府の古蹟及遺物保存規則（一九一六年）と連動していたが、昭和編には植民地からの報告も多い。彙報からは、指定の実際や各地の保勝会など具体的な情報が得られる。

歴史学でいえば、「国史」は「郷土史」の自発性を引きだしながら展開する。昭和戦前期の史蹟名勝天然記念物は広く社会と接点を持ち、今日につながる文化遺産と地域開発、あるいは文化遺産を通じた歴史意識形成などの問題群を生みだしてゆく。

近代日本文化財・景観保護関連年表

一八七一年（明治四年）	「古器旧物保存方」布告
一八七八年	フェノロサ来日
一八八八年	「臨時全国宝物取調局」設置　宮内省
一八九四年	志賀重昂『日本風景論』刊行
一八九五年	奈良帝国博物館開館
一八九六年	内務省に古社寺保存会設置
一八九七年	京都帝国博物館開館 「古社寺保存法」制定
一九〇〇年	帝国古蹟取調会発足
一九一〇年	南葵文庫において史蹟史樹保存に関する茶話会
一九一一年（明治四四年）	徳川頼倫等貴族院に「史蹟及天然紀念物に関する建議案」提出 史蹟名勝天然紀念物保存協会発足
一九一四年（大正三年）	『史蹟名勝天然紀念物』刊行開始
一九一九年	「史蹟名勝天然紀念物保存法」制定 庭園協会創立　機関紙『庭園』刊行開始
一九二三年	『史蹟名勝天然紀念物』五月休刊 関東大震災
一九二六年	『史蹟名勝天然紀念物』再刊　内務省地理課
一九二九年（昭和四年）	史蹟名勝天然記紀物保存協会文部省に移管 『国宝保存法』制定（古社寺保存法は廃止） 『國立公園』刊行開始（国立公園協会）
一九三三年	「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」制定
一九三四年	風景協会創立　機関紙『風景』刊行開始
一九三五年	和辻哲郎『風土　人間学的考察』刊行
一九四五年	敗戦
一九四九年	法隆寺金堂火災
一九五〇年	「文化財保護法」制定

第5集第1号　目次より



史蹟名勝天然紀念物　第五集第一號目次　昭和五年一月一日發行

口　繪（海　邊　巖（室　戸　岬）／甲州御嶽山のうてよりん）
一、動物の保護……理學博士　鐮木外岐雄……一
一、甲斐の名勝御嶽昇仙峡と其奥（一）……理學士　石原初太郎……六
一、下野國に於ける錺作部の遺蹟と遺物……醫學士　九山无圣……元
一、奈良の春日山原始林と遺蹟遺跡問題に就て……奈良縣國寶委員　岡本勇治……壹
天然保護と遺跡の問題……宅
一、咏得東京府天然紀念物十二種（續）……幹山岡田有邦……六
一、神都四時風景（續）……梅田義彦……四
一、大阪府豊能郡東能勢村の埋鐘……文學士　岸本準二……四
一、逸見海道五十三次（一）……宮尾しげを……兒
一、指定を希望する史蹟名勝天然紀念物―東京市（一）……矢吹業人……壹
一、京都府下史蹟調査雜記……上田三平……壹
後堀圓墳と陵墓名詮……
一、隔田川沿岸に碑文を訪ねて江戸を偲ぶ（一）……永峰光壽……元
一、日本ライン を下る……三重縣勝覽委員　大西源一……六
一、一階の土佐（上）……高橋城司……六
一、身延山と御嶽昇仙峡……業人……九
一、雜　報……壹
昭和四年十一月指定史蹟―本會役員會概報―／大平津地方天然記念物調査委員會の設立―
長曾根山陵発掘遺蹟顕彰會の創立―
一、協會月報……一四
役員會規程改正―愛知支部第九回見学案内記―／第三十七回例會報告記―／新入會員芳名―
一、公報彙纂……
附　録……
石塔の話……跡部直治……一一〇

◉内容見本

都市計畫法上の風致地區に就て

［附］京都市の風致地區

内務事務官　兒　玉　九　一

一、風致地區とは何か

是から御話する風致地區とは、都市計畫法に據つて定められた地區である。都市計畫法第十條の二項に「都市計畫區域内ニ於テハ市街地建築物法ニ依ル地域及地區ノ外土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風紀ノ維持ノ爲特ニ地區ヲ指定スルコトヲ得」と規定してある。是から所謂風致地區と云ふものが生れ出るのだ。

都市の構成を合理的ならしめ、産業上の便益を進め、商業の隆盛を期し、生活を快適ならしむる爲めに、都市計畫法は其の姉妹法たる市街地建築物法と手を握つて都市を各種の地域地區に分つて居る。即、住居地域、商業地域、工業地域及未指定地域なる四階級に色を染めかけて、住居地域の中では、各種の工場の如きを建てしめず、專ら安住の地を與ふるに努めて居る。商業地域に於ても、大工場の出來るのを防いで、商業的に土地を利用せしめんとして居る。工業地域の中には各般の工場を誘致し合理的に産業の發展を期せむと

第5集第6号（昭和五年六月）より

第六集總目次

（昭和六年度）

口　繪
黎明の三原火山
枝垂栗自生地
播津臥陽大池
石見千丈溪猿渡
秋田縣拂田柵趾
福島縣向ケ岡公園の櫻
和歌山城
須佐灣小松島
毛越寺趾
關ヶ原古戦場
出羽柵趾
コテウラン
淺間山天狗の露地及附近のからまつの自然
鹿兒島市城山の老樟
鳳來寺山
石製鴟尾
平泉毛越寺趾大泉池
因幡惡住寺塔趾
永山城趾（日田代官所趾）
伯耆大寺趾石製鴟尾
河口湖畔より見たる富士
甲斐穂坂村遺蹟第三號爐
相模國分寺塔趾
うしうま

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物【昭和編 第Ⅱ期】全12巻

◎概　要――A5判・上製本・総5、276頁

◎収録内容

復刻版巻数　原本

第16巻　昭和5年1月～4月（第5集1号～4号）
第17巻　昭和5年5月～8月（第5集5号～8号）
第18巻　昭和5年9月～12月（第5集9号～12号）
第19巻　昭和6年1月～4月（第6集1号～4号）
第20巻　昭和6年5月～8月（第6集5号～8号）
第21巻　昭和6年9月～12月（第6集9号～12号）

昭和編配本回数

第3回配本＝第16巻～第21巻（2005年10月刊）

本体揃価格100、000円＋税

ISBN4-8350-5390-7

第22巻　昭和7年1月～4月（第7集1号～4号）
第23巻　昭和7年5月～8月（第7集5号～8号）
第24巻　昭和7年9月～12月（第7集9号～12号）
第25巻　昭和8年1月～4月（第8集1号～4号）
第26巻　昭和8年5月～8月（第8集5号～8号）
第27巻　昭和8年9月～12月（第8集9号～12号）

第4回配本＝第22巻～第27巻（2006年5月刊）

本体揃価格100、000円＋税

ISBN4-8350-5397-4

◎定　価――本体揃価格200、000円＋税

◎既刊図書のご案内

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物【大正編】全3巻 附録1 別冊1

概要――A4判・A5判・上製本・総1、510頁
解説――丸山　宏（名城大学教授）
別冊――解説（丸山　宏）・総目次・索引
これのみ分売可＝本体価格1、000円＋税

ISBN4-8350-4407-X

定価――本体揃価格68、000円＋税

ISBN4-8350-4402-9

2003年6月一括刊行済み

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物【昭和編 第Ⅰ期】全12巻

◎収録内容――
第4巻～第9巻（大正15年1月～昭和2年12月）＝第1回配本（本体揃価格100、000円＋税）
第10巻～第15巻（昭和3年1月～昭和4年12月）＝第2回配本（本体揃価格100、000円＋税）

昭和編の巻数は、大正編（1～3巻）を継承し、第4巻から始まります。

概要――A5判・上製本・総5、506頁
解説――高木博志（京都大学人文科学研究所助教授）
別冊――解説（高木博志）・総目次・索引
（昭和編第Ⅳ期完結時に刊行）
これのみ分売可＝本体価格2、000円＋税

ISBN4-8350-5419-9

推薦――荒山正彦・上田正昭・栄原永遠男・羽賀祥一
定価――本体揃価格200、000円＋税
2004年10月～2005年5月配本刊行済み

表示価格は、全て税別

不二出版
〒113-0023
東京都文京区向丘一-二-一二
TEL　〇三-三八一二-四四三三
FAX　〇三-三八一二-四四六四
振替　〇〇一六〇-二-九四〇八四

昭和戦前期 文化遺産保護事業の全貌

明治後期から大正にいたる産業発展の過程で、わが国も工業化による国土の開発が進み、文化的景観と紀念物文化財は破壊の危機にさらされる。

この事態に徳川頼倫らは一九一一年、遺跡や自然を文化財として保護顕彰することを目的として「史蹟名勝天然紀念物保存協会」を発足させ、一九一九年「史蹟名勝天然紀念物保存法」を成立させた。

弊社では二〇〇三年六月、同協会の会報『史蹟名勝天然紀念物』の【大正編】を復刻刊行し、このたび、関東大震災を挟んで約三年間の休刊後に復刊された【昭和編】（大正一五年一月～昭和一九年八月終刊まで）を、全四期に分けて復刻刊行する。昭和戦前期の文化遺産保護行政の足跡を辿り、その全貌を明らかにするものである。

第9集第2号（昭和九年二月）より

臼杵石佛

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編 【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物

【昭和編 第Ⅲ期】 全12巻

体　裁――A5判・上製・総4、654頁

内　容――『史蹟名勝天然紀念物』第9集第1号～第12集第12号（昭和九年一月～昭和一二年一二月）

別　冊――解説（高木博志）・総目次・索引（昭和編第Ⅳ期完結時に刊行）

定　価――本体揃価格 2000、000円＋税

昭和編・第Ⅲ期＝2006年10月刊行開始！

不二出版

『史蹟名勝天然紀念物』【昭和編】の復刻によせて

高木博志

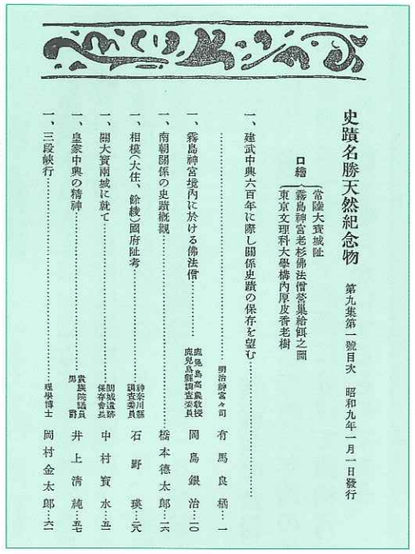
二十世紀、とくに日露戦争後以降の、史蹟・名勝保存や歴史意識発現の特色は、社会との密接なかかわりにある。総力戦に対応できる町や村を創りだそうとする、この時期には、一人一人の国民の歴史意識の涵養がめざされた。十八世紀以来の名望家や知識人が史蹟顕彰をしてきたあり方と、対象が「国民」的な広がりをみせる二十世紀のあり方とは、質的な変化がある。とくに昭和戦前期には、史蹟の前にはわかりやすい建標がなされ、郷土史の編纂や修学旅行、さまざまな団体による史蹟講演会などが活発になる。黒板勝美は、早くに「史蹟遺物保存に関する研究の概説」（『史蹟名勝天然紀念物』第一巻、一九一四年）で、南朝史蹟は歴史的価値はないけれども、「国民を感奮せしめた一の史蹟」として、保存の必要を説く。こうした国民教化と神話的・「名分論」的な史蹟の動員は、今回翻刻される昭和編『史蹟名勝天然紀念物』において、一九二六年一月の内務大臣官房地理課による復刊、さらには一九二九年一月からの文部省宗教局保存課への移管をへて、全面展開してゆく。昭和編には、明治天皇の聖蹟・南朝史蹟の顕彰、神武天皇聖蹟調査がみられる。日中戦争下では、国民精神作興と史蹟が結びつけられ各地に修養道場もつくられる。

一方、日中戦争の勃発までの時期は、外国からの観光客を誘致するツーリズムの全盛期でもあり、一九三一年の国立公園法の成立には、厚生運動・観光・地方振興といった要素もからむ。また歴史学・美術史・植物学・動物学・造園学などの学問の、二十世紀における科学的な発展も読みとれる。国内における史蹟名勝天然紀念物保存法（一九一九年）は、先行する朝鮮総督府の古蹟及遺物保存規則（一九一六年）と連動していたが、昭和編には植民地からの報告も多い。彙報からは、指定の実際や各地の保勝会など具体的な情報が得られる。

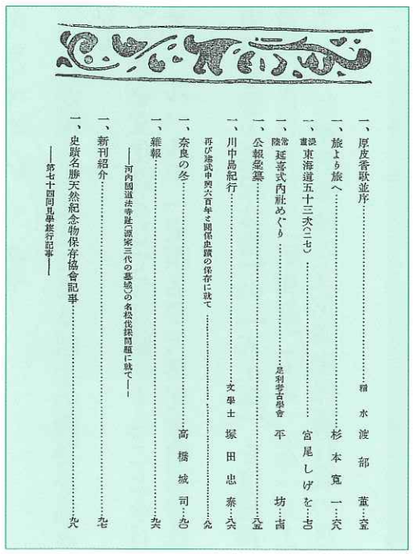
歴史学でいえば、「国史」は「郷土史」の自発性を引きだしながら展開する。昭和戦前期の史蹟名勝天然記念物は広く社会と接点を持ち、今日につながる文化遺産と地域開発、あるいは文化遺産を通じた歴史意識形成などの問題群を生みだしてゆく。

たかぎ　ひろし　京都大学人文科学研究所　助教授

第9集第1号　目次より


史蹟名勝天然紀念物　第九集第一號目次　昭和九年一月一日發行

口繪
一、常陸大寶城趾
一、霧島神宮老杉佛法僧營巢給餌之圖
一、東京文理科大學構内厚皮香老樹
一、建武中興六百年に際し關係史蹟の保存を望む……朋治神宮々司　有馬良橘…一
一、霧島神宮境内に於ける佛法僧……鹿兒島高農教授　鹿兒島郵政監督局長　岡島銀治…一〇
一、南朝關係の史蹟概觀……鎌倉川縣視察官員　橋本德太郎…一六
一、相模六住、餘綾國府址考……鎌倉川縣視察官員　石野瑛…一九
一、關大寶南城に就て……關城遺跡保存會長　中村寶水…五
一、皇室中興の精神……農商務省技師　井上清純…七七
一、三段峡行……理學博士　岡村金太郎…六
一、厚皮香畝並序……稲水渡部薔…豈
一、旅より旅へ……杉本寛一…六六
一、東海道五十三次（二七）……宮尾しげを…八三
一、延喜式内社めぐり……柔利學士學會　平坊…四
一、公報彙纂……文學士　堀田忠泰…八六
一、川中島紀行……再び建武中興六百年と關係史蹟の保存に就て――
一、奈良の冬……高橋城司…八
一、雑報……九六
――河内國道法寺址（源塚三代の墓塚）の名松伐採問題に就て――
一、新刊紹介……七七
一、史蹟名勝天然紀念物保存協會記事……九
――第七十回同見學旅行記事――


◉内容見本

關西風水害と史蹟名勝天然紀念物

一、京都・奈良・滋賀の風水害地を視察して

文部省囑託　古谷清

この度の關西風水害に際し、余は京都・奈良・滋賀の一府二縣下に於ける、史蹟・名勝・天然紀念物の蒙つた、被害狀況の視察を命ぜられ、九月二十七日西下、十月四日歸京したのである。余の赴きしは、災後既に一週間を經過し、その或部分は取片付の濟んだ所もあるので、直後のやうな慘狀を見る事の出來ぬ點もあつたが、概して上記の一府二縣下では、一般の被害は、大阪府下に比較すると、少なかつたのである。從つて史蹟・名勝・天然紀念物の被害も割合に少なく濟んだのは、先づ〳〵幸と云はねばならぬ。一府二縣下の内で被害箇所の多かつたのは、京都府が第一のやうに思はれる。京都府は、山紫水明名所舊蹟を以て誇る所だけに、此方面の被害にはその復舊には到底金錢を以て代へる事の出來ぬものがある。

話が少し違ふが、京都府下の國寶建造物の被害は實に甚だしい。之を史蹟の建造物に比較すると、史蹟の方は十が一の被害で濟で居る。余は被害地全部を視察したのでない。何分にも短日であるから、府縣當局と打合せ余の到着頃までに、その當局に判明せし分中、被害の最甚だしいと思ふ處を視察したのに過ぎない。

（二五）

第9集第12号（昭和九年一二月）より

第九集總目次

（昭和九年度發行）

口繪
常陸大寶城趾
霧島神宮老杉佛法僧營巢給餌之圖
東京文理科大學構内厚皮香老樹
白杵石佛
余田臥龍梅
伊勢國司館趾廻岡（別格官幣社北畠神社境内）
鷲巣鼻原生林にあるハテルマギリの板根
後醍醐天皇隱岐行在所
魚津海岸に於ける埋没杉
新田公義擧傳説地生品神社全景
埼玉縣馬宮村櫻草自生地
多賀城趾
青山練兵場時代のひとつばたご
明治天皇聖蹟開成館
お茶ノ水地下式横穴
燒ヶ岳の噴煙
千葉寺の公孫樹
大野糸魚樓息地並糸魚
上總國九十九坊塔趾礎石
廣島大本營玉座
河村城前城
廣島行在所（偕行社）
淡路島國道松並木（風害狀況）
岡山後樂園被害の狀況
田村神社の繪馬

近代日本文化財・景観保護関連年表

一八七一年（明治四年）　「古器旧物保存方」布告
一八七八年　フェノロサ来日
一八八八年　「臨時全国宝物取調局」設置　宮内省
一八九四年　志賀重昂『日本風景論』刊行
一八九五年　奈良帝国博物館開館
一八九六年　内務省に古社寺保存会設置
一八九七年　京都帝国博物館開館
「古社寺保存法」制定
一九〇〇年　帝国古蹟取調会発足
一九一〇年　南葵文庫において史蹟史樹保存に関する茶話会
一九一一年（明治四四年）　徳川頼倫等貴族院に「史蹟及天然紀念物に関する建議案」提出
史蹟名勝天然紀念物保存協会発足
一九一四年（大正三年）　『史蹟名勝天然紀念物』刊行開始
一九一九年　「史蹟名勝天然紀念物保存法」制定
庭園協会創立　機関紙『庭園』刊行開始
一九二三年　『史蹟名勝天然紀念物』五月休刊
関東大震災
一九二六年　『史蹟名勝天然紀念物』再刊　内務省地理課
一九二九年（昭和四年）　史蹟名勝天然記紀物保存協会文部省に移管
『国宝保存法』制定（古社寺保存法は廃止）
『國立公園』刊行開始（国立公園協会）
一九三三年　「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」制定
一九三四年　風景協会創立　機関紙『風景』刊行開始
一九三五年　和辻哲郎『風土　人間学的考察』刊行
一九四五年　敗戦
一九四九年　法隆寺金堂火災
一九五〇年　「文化財保護法」制定

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物【昭和編 第Ⅲ期】全12巻

◎収録内容

復刻版巻数	原本	昭和編配本回数
第28巻	昭和9年1月～4月（第9集1号～4号）	第5回配本＝第28巻～第33巻（2006年10月刊）
第29巻	昭和9年5月～8月（第9集5号～8号）	
第30巻	昭和9年9月～12月（第9集9号～12号）	
第31巻	昭和10年1月～4月（第10集1号～4号）	
第32巻	昭和10年5月～8月（第10集5号～8号）	
第33巻	昭和10年9月～12月（第10集9号～12号）	
第34巻	昭和11年1月～4月（第11集1号～4号）	第6回配本＝第34巻～第39巻（2007年5月刊）
第35巻	昭和11年5月～8月（第11集5号～8号）	
第36巻	昭和11年9月～12月（第11集9号～12号）	
第37巻	昭和12年1月～4月（第12集1号～4号）	
第38巻	昭和12年5月～8月（第12集5号～8号）	
第39巻	昭和12年9月～12月（第12集9号～12号）	

本体揃価格100、000円＋税
ISBN4-8350-5404-0

本体揃価格100、000円＋税
ISBN4-8350-5411-3

◎概　要――A5判・上製本・総4、654頁　◎定　価――本体揃価格200、000円＋税

◎既刊図書のご案内

史蹟名勝天然紀念物【大正編】全3巻 附録1 別冊1

概要――A4判・A5判・上製本・総1、510頁
解説――丸山　宏（名城大学教授）
別冊――解説（丸山　宏）・総目次・索引
これのみ分売可＝本体価格1、000円＋税
定価――本体揃価格68、000円＋税

史蹟名勝天然紀念物【昭和編 第Ⅰ期】全12巻

◎収録内容――第4巻～第9巻（大正15年1月～昭和2年12月）＝第1回配本（本体揃価格100、000円＋税）
第10巻～第15巻（昭和3年1月～昭和4年12月）＝第2回配本（本体揃価格100、000円＋税）

概要――A5判・上製本・総5、506頁
推薦――荒山正彦・上田正昭・栄原永遠男・羽賀祥二
定価――本体揃価格200、000円＋税

昭和編の巻数は、大正編（1～3巻）を継承し、第4巻から始まります。

史蹟名勝天然紀念物【昭和編 第Ⅱ期】全12巻

◎収録内容――第16巻～第21巻（昭和5年1月～昭和6年12月）＝第3回配本（本体価格100、000円＋税）
第22巻～第27巻（昭和7年1月～昭和8年12月）＝第4回配本（本体価格100、000円＋税）

概要――A5判・上製本・総5、276頁
推薦――荒山正彦・上田正昭・栄原永遠男・羽賀祥二
定価――本体揃価格200、000円＋税

表示価格は、全て税別

不二出版
〒113-0023 東京都文京区向丘一-二-一二
TEL ○三-三八一二-四四三三
FAX ○三-三八一二-四四六四
振替 ○○一六○-二-九四○八四

昭和戦前期 文化遺産保護事業の全貌いよいよ完結！

明治後期から大正にいたる産業発展の過程で、わが国も工業化による国土の開発が進み、文化的景観と紀念物文化財は破壊の危機にさらされる。

この事態に徳川頼倫らは一九一一年、遺跡や自然を文化財として保護顕彰することを目的として「史蹟名勝天然紀念物保存協会」を発足させ、一九一九年「史蹟名勝天然紀念物保存法」を成立させた。

弊社では二〇〇三年六月、同協会の会報『史蹟名勝天然紀念物』の【大正編】を復刻刊行し、このたび、関東大震災を挟んで約三年間の休刊後に復刊された【昭和編】（大正一五年一月～昭和一九年八月終刊まで）を、全四期に分けて復刻刊行する。昭和戦前期の文化遺産保護行政の足跡を辿り、その全貌を明らかにするものである。

第17集第12号（昭和一七年一二月）より

源頼朝肖像

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編 【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物

【昭和編 第Ⅳ期】全16巻 別冊1

体裁――A5判・上製・総6、374頁

内容――『史蹟名勝天然紀念物』第13集第1号～第19集第8号（昭和一三年一月～昭和一九年八月）

別冊――解説（高木博志）・総目次・索引（昭和編第Ⅳ期完結時に刊行）

定価――本体揃価格 2800、000円＋税

昭和編・第Ⅳ期＝2007年10月刊行開始！

不二出版

『史蹟名勝天然紀念物』【昭和編】の復刻によせて

高木博志

二十世紀、とくに日露戦争後以降の、史蹟・名勝保存や歴史意識発現の特色は、社会との密接なかかわりにある。総力戦に対応できる町や村を創りだそうとする、この時期には、一人一人の国民の歴史意識の涵養がめざされた。十八世紀以来の名望家や知識人が史蹟顕彰をしてきたあり方と、対象が「国民」的な広がりをみせる二十世紀のあり方とは、質的な変化がある。とくに昭和戦前期には、史蹟の前にはわかりやすい建標がなされ、郷土史の編纂や修学旅行、さまざまな団体による史蹟講演会などが活発になる。黒板勝美は、早くに「史蹟遺物保存に関する研究の概説」（『史蹟名勝天然紀念物』第一巻、一九一四年）で、南朝史蹟は歴史的価値はないけれども、「国民を感奮せしめた一の史蹟」として、保存の必要を説く。こうした国民教化と神話的・「名分論」的な史蹟の動員は、今回翻刻される昭和編『史蹟名勝天然紀念物』において、一九二六年一月の内務大臣官房地理課による復刊、さらには一九二九年一月からの文部省宗教局保存課への移管をへて、全面展開してゆく。昭和編には、明治天皇の聖蹟・南朝史蹟の顕彰、神武天皇聖蹟調査がみられる。日中戦争下では、国民精神作興と史蹟が結びつけられ各地に修養道場もつくられる。

一方、日中戦争の勃発までの時期は、外国からの観光客を誘致するツーリズムの全盛期でもあり、一九三一年の国立公園法の成立には、厚生運動・観光・地方振興といった要素もからむ。また歴史学・美術史・植物学・動物学・造園学などの学問の、二十世紀における科学的な発展も読みとれる。国内における史蹟名勝天然紀念物保存法（一九一九年）は、先行する朝鮮総督府の古蹟及遺物保存規則（一九一六年）と連動していたが、昭和編には植民地からの報告も多い。彙報からは、指定の実際や各地の保勝会など具体的な情報が得られる。

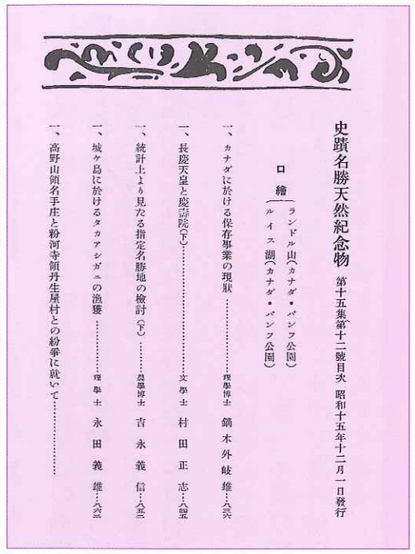
歴史学でいえば、「国史」は「郷土史」の自発性を引きだしながら展開する。昭和戦前期の史蹟名勝天然記念物は広く社会と接点を持ち、今日につながる文化遺産と地域開発、あるいは文化遺産を通じた歴史意識形成などの問題群を生みだしてゆく。

たかぎ　ひろし　京都大学人文科学研究所　准教授

近代日本文化財・景観保護関連年表

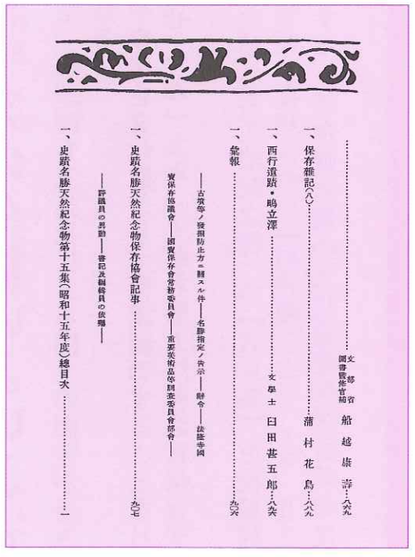
一八七一年（明治四年）　「古器旧物保存方」布告
一八七八年　フェノロサ来日
一八八八年　「臨時全国宝物取調局」設置　宮内省
一八九四年　志賀重昂『日本風景論』刊行
一八九五年　奈良帝国博物館開館
一八九六年　内務省に古社寺保存会設置
一八九七年　京都帝国博物館開館
「古社寺保存法」制定
一九〇〇年　帝国古蹟取調会発足
一九一〇年　南葵文庫において史蹟史樹保存に関する茶話会
一九一一年（明治四四年）　徳川頼倫等貴族院に「史蹟及天然紀念物に関する建議案」提出
史蹟名勝天然紀念物保存協会発足
一九一四年（大正三年）　『史蹟名勝天然紀念物』刊行開始
一九一九年　「史蹟名勝天然紀念物保存法」制定
庭園協会創立　機関紙『庭園』刊行開始
一九二三年　『史蹟名勝天然紀念物』五月休刊
関東大震災
一九二六年　『史蹟名勝天然紀念物』再刊　内務省地理課
史蹟名勝天然記紀物保存協会文部省に移管
一九二九年（昭和四年）　『国宝保存法』制定（古社寺保存法は廃止）
『國立公園』刊行開始（国立公園協会）
一九三三年　「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」制定
一九三四年　風景協会創立　機関紙『風景』刊行開始
一九三五年　和辻哲郎『風土　人間学的考察』刊行
一九四五年　敗戦
一九四九年　法隆寺金堂火災
一九五〇年　「文化財保護法」制定

第15集第12号　目次より



史蹟名勝天然紀念物　第十五集第十二號目次　昭和十五年十二月一日發行

口　繪
一、カナダに於ける保存事業の現狀……理學博士　鏑木外岐雄…八六六
一、長慶天皇と慶諒院（ペ）……文學士　村田正志…八五
一、統計上より見たる指定名勝地の檢討（ペ）……農學博士　吉永義信…八三
一、城ヶ島に於けるタカアシガニの漁獲……理學士　永田義雄…八二
一、高野山領名手庄と粉河寺領丹生屋村との紛爭に就いて……
……
一、保存雜記（八）……文部省國寶調査官補　船越康壽…八九
一、西行遺蹟・鳴立澤……文學士　臼田甚五郎…八六
一、彙報……（古蹟及遺物保存規則）
——東京帝國大學地理學教授　藤村花鳥…八八九
一、史蹟名勝天然紀念物保存協會記事……九七
——評議員の異動——
一、史蹟名勝天然紀念物第十五集（昭和十五年度）總目次……一



◉内容見本

カナダに於ける保存事業の現狀

理學博士　鏑木外岐雄

今春二月から凡そ半年に亙る南北米行脚の序に、各國に於ける史蹟名勝天然紀念物保存の實狀をも聊か調べて見たが、爰には編輯子の懇望默し難く、都合によりカナダに於ける保存の現狀を簡單に敍述し、アメリカ合衆國その他の保存事業に就いては他の機會に讓ることにした。

カナダに於ける史蹟名勝天然紀念物の保存は今から五五年前、卽ち一八八五年に初めてロッキー山系のバンフ溫泉やルイス湖を中心とする地帶が名勝として指定されてから、鑛山資源省の國立公園事務局の所管として公園事務と一緒に取扱はれることになつて居る。その國立公園には遊覽保健向の名勝を主とし、處によつては天然紀念物の保存をも講ずるもの、著名な野生動物にして一時その跡を絕たむとした種類の保護を主體とするもの、及び史蹟の保存を主眼とするものの三通が識別される。なほ特別の史蹟保存委員會があつて、史蹟の保存顯彰が行はれて居る。而してブリチッシュ・コロンビアのグレーシヤ以外の國立公園へは總て立派な自動車道路が開鑿されて居り、全部と云ふ譯ではないが、ホテル、ロッジ、バンガルー、キャンプ、その他の設備があり、自由に乘馬、釣魚、水泳、船遊、ゴルフ、庭球、ハイキング、スキー等色々の運動をも樂しみ得るやうに施設されて居る。又そこに生育する植物や動物の愛護策が講ぜられ、野獸の如きはときに頑丈な柵を廻らして積極的に保護されて居る。のみならず博物館の施設もあつて研究の便を圖り、或は敎育の資に供して居り、その國民の祖國愛精神の涵養や體

（一）

第15集第12号（昭和一五年一二月）より

第十五集總目次（昭和十五年度）

口　繪

官幣大社橿原神宮
釧路丹頂鶴蕃殖地
國寶聖德太子勝鬘經講讃圖
二條城大廣間圖
官幣大社丹生川上神社中社
名勝（御三家）保松原
孝明天皇宸翰御製
鹽竈神社の鹽竈櫻
鹿苑寺—金閣寺—庭園
枇榔島熱帶性植物產地
神武天皇聖蹟埃多祁理宮傳說地
神武天皇聖蹟高嶋宮傳說地
神武天皇聖蹟鵄邑
神武天皇聖蹟鳥見山中靈畤傳說地
みかどあげはてふ
青島の海岸
史蹟舊二條離宮（二條城）內濠
名勝縮景園　清風館と跨虹橋
史蹟小泉八雲舊居
天然紀念物裳曳雞
史蹟八幡行宮址
名勝六義園
名勝及天然紀念物瀞八丁
飛騨白川村の民家
ランドル山（カナダ・バンフ公園）
ルイス湖（カナダ・バンフ公園）

史蹟名勝天然紀念物保存協会 編【復刻版】

史蹟名勝天然紀念物

【昭和編 第Ⅳ期】全16巻 別冊1

◎収録内容

復刻版巻数	原本	昭和編配本回数
第40巻	昭和13年1月～4月（第13集1号～4号）	第7回配本＝第40巻～第45巻（2007年10月刊）
第41巻	昭和13年5月～8月（第13集5号～8号）	
第42巻	昭和13年9月～12月（第13集9号～12号）	
第43巻	昭和14年1月～4月（第14集1号～4号）	
第44巻	昭和14年5月～8月（第14集5号～8号）	
第45巻	昭和14年9月～12月（第14集9号～12号）	
第46巻	昭和15年1月～4月（第15集1号～4号）	第8回配本＝第46巻～第50巻（2008年5月刊）
第47巻	昭和15年5月～8月（第15集5号～8号）	
第48巻	昭和15年9月～12月（第15集9号～12号）	
第49巻	昭和16年1月～6月（第16集1号～6号）	
第50巻	昭和16年7月～12月（第16集7号～12号）	
第51巻	昭和17年1月～6月（第17集1号～6号）	第9回配本＝第51巻～第55巻＋別冊1（2008年10月刊）
第52巻	昭和17年7月～12月（第17集7号～12号）	
第53巻	昭和18年1月～6月（第18集1号～6号）	
第54巻	昭和18年7月～12月（第18集7号～12号）	
第55巻	昭和19年1月～8月（第19集1号～8号）	
別冊	昭和編の解説・総目次・索引	

【別冊のみ分売可＝本体価格2、000円＋税】

ISBN978-4-8350-5768-2
本体揃価格100、000円＋税

ISBN978-4-8350-5775-0
本体揃価格 90、000円＋税

ISBN978-4-8350-5781-1
本体揃価格 90、000円＋税

ISBN978-4-8350-5787-3

◎概　要――A5判・上製・総6、374頁　◎定　価――本体揃価格280、000円＋税

◎既刊図書のご案内【大正編・昭和編全期の総合計＝全55巻・附録1・別冊2 本体揃価格948、000円＋税】

史蹟名勝天然紀念物【大正編】全3巻 附録1・別冊1

概要――A4判・A5判・上製本・総1、510頁
収録――大正三年九月～大正一二年五月
定価――本体揃価格68、000円＋税

史蹟名勝天然紀念物【昭和編 第Ⅰ期】全12巻

概要――A5判・上製本・総5、506頁
収録――大正一五年一月～昭和四年一二月
定価――本体揃価格200、000円＋税

史蹟名勝天然紀念物【昭和編 第Ⅱ期】全12巻

概要――A5判・上製本・総5、276頁
収録――昭和五年一月～昭和八年一二月
定価――本体揃価格200、000円＋税

史蹟名勝天然紀念物【昭和編 第Ⅲ期】全12巻

概要――A5判・上製本・総4、654頁
収録――昭和九年一月～昭和一二年一二月
定価――本体揃価格200、000円＋税

不二出版
〒113-0023 東京都文京区向丘一-二-一一-二
TEL ○三-三八一一-四四三三
FAX ○三-三八一二-四四六四
振替 ○○一六○-二-九四○八四

表示価格は、全て税別